

京都大学工学部 正員 吉川和広
京都大学工学部 正員 小林潔司
京都大学大学院 ○学生員 三鴨 誠

1. はじめに

大都市圏域における総合交通体系計画においては、交通需要予測の基礎となる将来の地域フレームを、計画に関係する各市町村等の構想計画や独自の政策・ビジョンを積み上げることにより設定する場合が多い。このようにして作成した地域フレームは、それに何って誘導すべき望ましい地域の将来像を示すものとして重要な意味を持つものであるが、ともすればそれを実現するための政策的誘導の実行可能性に乏しいような地域フレームとなっている場合も少なくないと考える。これに対して本研究は従来の「政策ビジョン先行型」の地域フレームとは異なり、まず地域構造の長期的な変動状況に関する現象合理的な地域認識を行うとともに、このような地域認識に基づいて実現可能な範囲の中で地域の望ましい将来像を模索していくという「事実・情報重視型」の地域フレームを作成することとした。すなわち本研究ではまず過去から現在に至るような勢的な地域構造の変動状況を実証的に分析するとともに、地域のそのような勢的な将来像を将来地域フレームとして記述する方法について考察する。そして、設定した将来の地域フレームに基づいて将来における交通流動の状態を分析し交通計画や地域計画上の問題点の発見・整理を通して長期的な地域の誘導方向や幹線道路網の整備方針を検討する。さらに、このような「現状推移型」の基本的な将来の地域フレームに対して地域の政策的な誘導方向を考慮したような代替的な地域フレームや幹線道路網の代替案を設定する。そして、地域の誘導方向と幹線道路網代替案の整合性に関する評価・検討を段階的に繰り返すことにより、より望ましい地域の将来像を模索し発見していくという立場をとることとした。

本研究はこのような観点のもとに将来の望ましい都市・地域構造への誘導を目指した広域的な幹線道路網の整備計画を合理的に策定するための方法についてシステム論的な考察を行ったものである。

2. 分析の概略的な手順

以上に述べた考え方に立脚して、本研究では図1に示すような分析プロセスを設定した。すなわち、まず④地

成構造特性とその変化状況の一次的な分

析を通じて地域の概
略的な認識を行い、

以後の分析のための
事前の想定や仮説の

設定を行う。次に、

③ 1時間断面における

る社会・経済的な地
域の構造的な特徴

・地区間の交通流動

通じて地域構造を明

将来の地域フレーム

たような合理的な将来

構造分析にもとづいて

に、以上で設定した

推定法による交通量
と将来の地域フレ-

網代替束の絞り込み

る「見つもり」の違
異についても概略的

④交通流動状況の経
変化状況に関する分

つかの特徴的なパタ

61

スチーマー2

地域構造特性とその変現状況の一次分析

地域構造面における地域構造の形成過程

寄与地域・構成形成態の分布

流動状況の分析

変現状況と地域構造形成態の関連分析

スチーマー3

地域空間スケールによる形成過程の分析

ドメイン・中央性の分析

フレーム設定

五核地域を定による新成長型地域代替率の算出及び評価

スチーマー4

都市集積のとりまとめ

将来の地域フレームを作成するうえでの重要な要素、要因やその特性値を把握し、現実の地域構造特性を反映したような合理的な将来の地域フレームを作成するための方法について考察する。③本研究では、このような地域構造分析にもとづいて図2に示すような「現状推移型」の将来の地域フレームの推計プロセスを作成した。さらに、以上で設定した将来の地域フレームに対して五段階推定法による交通需要予測を通じて、幹線道路網代管架や将来の地域フレームに関する評価、検討を行うこととする。またこの段階において、以下で検討する幹線道路網代管架の絞り込みや将来の地域フレームの推計における「見つもり」の違いによる地域フレーム深の特性の差異についても概略的な検討を行うこととする。さらに、④交通流動状況の経年的な変化傾向や社会、経済活動の変化状況に関する分析を通じて地域構造の長期的な変動状況に関する分析を行い、地域の多様な変化状況をいくつかの特徴的なパターンに集約することとする。そして

